



別冊 Word Bookで 語句や表現に慣れ親しまおう

饒田 亜子
元 川崎市立四谷小学校
総括教諭



英語に慣れ親しむ学習活動での活用の工夫

Junior Sunshineの別冊Word Bookは、児童が英語の語句や表現に慣れ親しむために大きな役割を果たします。5年、6年でそれぞれ別冊で、各学年の学習に関わることばだけが載っており、シンプルな絵辞典として利用できます。知りたいことばを目次やインデックスのカテゴリーからすぐに探せるなど、児童が主体的に学習を進めることができる工夫が満載です。授業中はもちろん自主学习でも活用できるものなので、その使い方の例を教師が示すとよいでしょう。

多くの学校では、児童が授業で初めて学習する語句を扱う際には、教師がデジタル教材やピクチャーカードを示し、友だちと一緒にそれらを見て学びます。そこにWord Bookがあると、ことばが示す意味(絵)や文字を手元で見たり発音したりして、自分で確かめることができます。

また、次のように語句や表現に慣れ親しむ活動でも活用できます。

- 「ポインティング・ゲーム」で語句や表現の音声を聞き、各自がその音声が表している絵を指さして確認し、その音声を復唱します。慣れてきたら、ペアになってどちらが早く指さして言えたかを競うゲームにしてもよいでしょう。授業のはじめに繰り返し行うことで、児童はことばとその意味を理解することができるようになります。
- 学習が進んできたら、Word Bookを開き、音声を聞いて、

(音声) panda→(児童) p-a-n-d-aのように単語を構成するアルファベットを声に出して読んだり、音声のあとに教師が“How many 'a's?”のように質問し、それに答えたりするなど、アルファベットにも目を向けられるようにします。(綴りを覚えることを目的にしないことに留意しましょう。)

- 教師が、ことばを構成するアルファベットをランダムに読み上げ(lionならばo, l, n, iなど)、児童はWord Bookを見ながら教師が示すことばを探し、見つけたらそのことばを答えます。

児童の主体的な学習に役立つ「絵辞典」

WordBookは、児童が伝えたいと思うことを英語で表すときに、ことばを調べる資料としても活用できます。慣れ親しんだことばの中から使いたいことばを選んだり、「あれは英語でなんて言うのかな」と調べたりします。QRコードを読み取れば、発音を自分で確認することもできます。また、Word Bookに載っておらず、教師やALTに尋ねて知ったことばを書き加えるスペースもあるので、学習の足跡が残り、自分だけのWord Bookが作られていきます。

Word Bookは、児童が何度も繰り返し使うことで、理解したことばが増えたことや、まだわからないことばが何かなどを確認できます。日々の授業に効果的に取り入れることで、児童の学習への主体性を高めるために役立つはずです。



QRコードを読み取れば、一つひとつの語句の音声を確かめることができます。

house

児童が自由に
語句を書き足すことができます。